



外客誘致と道路の清潔

新井堯爾

我國に於ける外客誘致事業も、一昨年國際觀光局が設置せられてより急に國民全般の關心を惹くやうになり、今では外客誘致といふ言葉は勿論、その意義、重要性、事業の内容、國民として心掛けねばならぬことなどは、最早一般の常識となつたと言つても過言ではあるまいと思ふ。が併しこの外客誘致事業はその關係の範圍が非常に廣汎なために、重要なことでありながらまだ一般の注意を惹いてゐないもの、また氣は付いてゐても氣の付き方の足りないものの少くないことは遺憾な次第と言はなければならぬ。かやうな事柄の中道路に關係のあるものは、道路の清潔保持といふことではあるまいかと思ふ。

道路は鐵道及び船舶と相並んで主要な交通機關であるが、國民一般がまだ徒歩主義で、運搬具も荷車や自轉車に過ぎな

かつた時代にはその改良といふことは殆んど問題にされず、外人から田圃だか道路だか分らぬとか、日本には道路らしい道路は一つもない、あるものは唯道路の豫定地に過ぎないとかいふ様な悪口を言はれたものであるが、最近自動車の發達に刺戟されて、道路の改良といふことが社會の各方面で研究され、又内務省でも世論の趨向に鑑みて道路の改良に絶大の努力を續けて來た結果、この數年間に昔日の面目を一新するに至つたことはお互に慶賀に堪えぬ次第である。今後は商業上は勿論旅行、觀光上に自動車の利用は益々多くなるのであるから、その改良の愈々盛んならんことを祈る次第である。

ところが此際國民として大い考へなければならぬことは、この改良された道路、或は改良されないものでも、之を清潔に保つといふことである。

由來日本人は清潔を尊ぶ國民である、その潔癖性は國民性の一要素とまで言はれてゐるのであるが、これは自分の家中だけ、或は自分の身の廻りだけに限られてゐて、公の場所、共同の處では不潔なことを平氣するのは實に遺憾なことゝ言はねばならぬ。キレイに舗装された街路にタンツバを吐く、紙屑を捨てる、汚水を投捨てる、小便をする者へある、實に言語道斷の次第である。かくの如きことは折角の道路を殺してしまふものである、これが自分の庭先であつたら果してかくの如きことをするであらうか、他人に不快を與へ、お上に手敷をかけ、而も公衆衛生上甚だ危険なかくの如き行爲は之を犯罪として重罰を課すべきものである。かやうなことは之を止めるのに一錢半錢の金を要することではなく、又一舉手一投足の勞すらも要しない、唯そこに氣が付きさへすればすぐに止まることである、誰しも一度反省してみれば直ぐ氣のつくことである、要するに氣の付き方が足りないからである。

街路の常に清潔な、公衆道德のよく發達した國から日本に來て、この不様を見せつけられると實に堪え難い不快を感ず

ると屢々観光外人から訴へられる。

尤も之は獨り道路に限つたことではなく、汽車、汽船、電車の中とか、公園や海岸など公共の場所では到る處で演ぜられてゐる醜體なのである。

これについては鐵道省を始め、内務省、文部省、ジャパン・ツーリスト・ビュロー、國立公園協會、史蹟名勝天然記念物保存協會その他二三の外客誘致に關係のある團體の關係者を以て組織してゐる觀光火曜會に於て、かくの如き惡習を一掃して國土の淨化を圖り、進んでは世界に誇るべき我が風景を愛護する觀念を國民一般の間に普及させようといふ運動を起してゐる。

國家事變の場合身命財産を投出すことが尊い愛國心の表はれであることは申すまでもないことであるが、平時の愛國心といふことについては動もすれば忽にされ勝ちである。日本は天然資源こそ乏しいが、幸ひ世界に比類のない明媚な風光を有つてゐる、これを荒らさぬやう、汚さぬやう愛し、保護し、世界の人々を呼寄せて之を觀賞せしめ、他方之に依つて國の富を増し、國際間の親善を増すやうに努力することはこれ即ち平時の愛國心である、希くは賞會關係の方々にかかれ、前述べの趣旨を諒解せられ、道路のみならず國土全體の淨化、美化について絶大なる御援助を賜はらんことを切望する次第である。